

# ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.36 2014年2月7日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。朝7時前、鍵と門を開けるため眠い目をこすりながら氷点下の戸外に出たら、別館から本館へ抜ける通路にぶらさがる異様な物体。なんと氷柱（つらら）でした。どこからか垂れた滴が一晩で凍りついたのでしょうか。水が漏れた出所は？ と深追いをせず、しばしその透明な芸術作品を楽しみました。寒さもそろそろ底を突いて春に向かう季節。次はどんな自然の造形美が見られるでしょうね。

「つむじ風は天の室から吹き、寒さは北から来る。神の息によって氷が張り、広い水が凍りつく」。

（ヨブ37：9-10 エリフのことばより）

校長 関野祐二

## ● 校長室は診察室？

日頃は稼働率の低い物置校長室も、年明けからはにわかに活況を呈してきます。毎年恒例の、来年度に向けた履修相談や、入学を考えている来校者の面談が増えるからです。一年ぶりの在校生面談、椅子に座って向かい合い、「どうですか？ 学びは」と尋ねれば、まるで医者が定期健診で診察するような構図。確かにそういう意味合いもあるでしょう。健診者、おっと献身者の歩みをしばし立ち止まって見つめ直し、新たな段階へとジャンプさせたり軌道修正（治療？）したり。ある意味人生がかかっているのだから気は抜けませんし、向かい合うことのたいせつさを実感します。そうそう、今年は手帳を大きいサイズに替えたので、祈禱課題をしっかりとメモしてますよ（我が祈禱課題もメモシテネ）。学校見学の来校者も次々に（いえ、ポツポツと）校長室へおいでくださってはいますが、願書が届く本番はこれからですし、入学試験当日まで入学者は未確定ですから、ぜひお祈りをお願いします。どうぞ、定期健診に校長室へ訪れる仲間に加わってくださいませ。入学願書は2月末まで受け付けていますので、見学アポも含め今すぐ神学校にお問い合わせを！

## ● アイソン、哀損、愛尊

マスコミが騒ぐと空振りに終わるとのジンクスそのままに、アイソン彗星は11月29日朝、太陽に飛び込んで露と消えました。高校生の頃、実家の田んぼで明け方に見たウエスト彗星、30代に母教会の庭で夜明け前に眺めたハール・ボップ彗星の勇姿を思い描きつつ、朝4時に何度も起きて神学校本館屋上にのぼったのでした（まだ起きています？ いや、もう起きています寮生がいてビックリ）。11月中旬、東の超低空に漂うスモッグの中に、「ここに居るよ」と一度だけ弱々しい姿を見せてくれたアイソン。大型双眼鏡でもやっと見える程度の明るさに、差し迫る運命を予感しました。期待はずれの哀損彗星ではかわいそうだから、主の愛を尊ぶ愛尊彗星とでも言い替えましょう。彗星と同じくはかない存在の人間を愛し、尊んでくださる主を思いつつ。

そうそう、夏から秋のいるか座新星に続き、1月にはおおぐま座の銀河M82に超新星が出現。

1993年に連日連夜観測した超新星以来の明るさ（10等台）です。1790万光年彼方で起きた天然原子炉の爆発現象（物騒な言い方で失礼）を、1790万年後に地球で見ている不思議。なんだかよくわかりませんね。時空スケールが大きすぎて、レポートや試験の点数なんてどうでもよくなるでしょ？ アレ、「いつまで趣味の話をしてるの！」と声が聞こえそうなのでこの辺で。

## ● チャペルの時計壊れる

あの夕、礼拝学クラスのため暖房をつけようとチャペル後ろの会議室に入ったら、かすかに異様な「ジー」という音。耳を澄ませ震源地を探すと、チャペル中央の梁に説教講壇へ向けて掛けられた、由緒ある(?) デジタル時計でした（卒業生なら誰でも知っていますね）。デジタル、と言っても日めくりカレンダーのように、白数字を描いた黒い札がパタパタとめくれていくアレ。なんと1分が1秒のごとく、すごいスピードで断末魔の如く。集まった礼拝学の面々に現役最後の姿を分かち合った後、はずしてあれこれいじったら、コトリと停止し最期を迎えました。我が信徒時代から数えても記憶している限りこの時計でしたから、おそらく30年以上はここで時を刻んで来たはず。どんな説教を聴き、どんな会議を見届けて来たのでしょうか。ご苦労さまでした。

翌週の祈祷会途上、ホームセンターで後継ぎを買いました。大きな大きなデジタル表示、今度は液晶の電波時計です。月日表示と気温湿度計のオマケ付き。当たり前ですが1秒も狂いません。今まで説教の時間オーバーを時計の遅れに責任転嫁していたアダムの子らは、ぐうの音も出さず。1分進むたびに「パタン」（パサッ）と音がした頃、無意識のうちに時が進む重さを体感していたのだ、と今さらながら気づきました。そう、こうして再臨へと一歩ずつ近づいているのですね。

## ● 卒業式と入学式、来校を歓迎します

あと一ヶ月少して卒業式。今年は専門科の卒業生11名という大型イベントです。さまざまなスタイルの献身者を受け入れ育てる本校ですが、卒業生にフルタイム献身者が多いのも今年の特徴でしょう。いきなり四月から教会の現場で重責を担うわけですから（もう春休みは最後だよ）、日増しに緊張感が高まるのも当然。在庫払底につき今回の卒業式から証書ホルダーが新しくなりますよ（形は同じ）。さて、二年続いた女性説教者から替わり、今年の卒業式には世田谷中央教会の安藤能成牧師をお招きします。JEA 理事長をはじめキリスト教界の重責を兼ねておられる今、教会現場の荒波に旅立つ卒業生（TA 兄含む）への力強いみことばに期待大です。お客様が多そうな卒業生ばかりで(?)、来校者を収容しきれぬか一抹の不安はあるのですが（記録は144名）。

入学式は教師の持ち回りで(!)、井上誠先生が説教をされます。ユダヤジョークが飛び出すか、はたまたチャペルでのレビ記講解が続くのか、乞うご期待。「傷と向き合う」「立ち位置を知る」がキーワードの井上先生ですから、きっと（昨年の冷水を浴びせる説教とは違った）新入生を励まし慰めるみことばが取り次がれることでしょう。最終的に誰が聞くことになるのか楽しみ！

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業を控えた11名の学びと卒業後の働きが守られるように。在校生の後期授業（3月15日終了）が最後まで守られ、新年度に向かって良き備えが出来るように。
- ・ 3月7日の入学試験に向けて、4月より新たに学ぶ献身者が多く与えられるように。
- ・ 本校の運営が支えられ、諸教会や他神学校との良き交わりと信頼関係に基づき、主にある献身者育成の使命を果たせるように。教職員15名と理事5名の働きのため。